

2016年10月4日



国立がん研究センターと「医療ビッグデータ」活用の共同研究開始

1. 「個人別のリスクに基づく効果的な疾病予防・健康増進シナリオ」の開発
2. 健康寿命延伸に関する共同研究

第一生命保険株式会社(社長:渡邊 光一郎)は、保険ビジネス(Insurance)とテクノロジー(Technology)の両面から生命保険事業独自のイノベーションを創出する取組みを“InsTech”(インステック)と銘打ち、優先的な戦略課題としてグループ全体で推進しており、その中でも特に重要なテーマとして「医療ビッグデータ」の活用に取り組んでいます。

今般、この取組みの一環として、国立研究開発法人国立がん研究センター(理事長:中釜 斉、以下、国立がん研究センター)と疾病予防・健康増進に資する共同研究を開始し、幅広く「医療ビッグデータ」の活用を推進していきます。

国立がん研究センターは、世界最高水準の「がん」の医療、国のがん登録制度の運営、発がんリスクに関する先進的な研究などに加え、「がん」を含めたさまざまな疾病の予防や健康増進について先進的で高度な取組みを展開しています。その代表的な取組みとして、がんや循環器疾患、脳卒中などの重大な疾病に関するリスクやその要因について、国立循環器病研究センターや大学・保健所等との連携により、長期にわたる大規模な観察に基づく研究である「JPHC スタディ¹」(多目的コホート研究)を行っており、幅広く生活習慣病に関するリスクチェックツール²を開発するなどのノウハウ・技術を有しています。

国立がん研究センターの有する優れた技術や実績と、第一生命が有する保険医学分野の知見とお客さまや社会に対する情報発信ノウハウや機能を組み合わせ、疾病予防や健康増進に関する取組みをさらに発展させるべく、次の共同研究・開発を開始します。

1. 一人ひとりの健康状態や運動・食事、喫煙・飲酒などの生活習慣をもとに
重大な疾病リスクの軽減・予防、健康増進に役立つ効果的な生活習慣(運動、食事、喫煙・飲酒等)の
改善シナリオとアドバイスの開発・提供

2. 日本人の健康寿命延伸に資するエビデンスの蓄積を目的とした、
健康状態、生活習慣、ライフステージ・ライフイベントと、疾病罹患や入院、死亡などとの関連解析

この取組みに際して、当社の医師を国立がん研究センター「社会と健康研究センター」に本年9月より派遣するとともに、当社本社スタッフも、リスクチェックツールの高度化に向けた取組みに参画します。ツールの高度化により、リスク増加に影響を与える因子ごとに、より一人ひとりの健康状態や生活習慣に沿った効果的な改善アドバイスを提供できるようになります。

当社は、国立がん研究センターと2012年に包括的連携協定を締結し、これまでも国立がん研究センターの「がん」に関する専門性の高い有益な情報を、セミナー、リーフレット、生涯設計デザイナー（営業職員）の携帯パソコン用コンテンツなどを通じて、幅広く提供してきました。

今後は、これらの取組みをさらに発展させ、広く疾病予防・健康増進をサポートすることで健康寿命の延伸などの国民的な課題について、さらに貢献できるよう努めていきます。

以上

i 「JPHC スタディ」とは、Japan Public Health Center-based Prospective Study のこと。日本における約10万人の地域住民を対象に、10年以上にわたる長期追跡を実施。生活習慣や健康に関する情報等を提供していただき、どのような生活習慣を持つ人が、がん・脳卒中・心筋梗塞・糖尿病などになりやすいのか、あるいはなりにくいのかを明らかにすることを目的とする。

ii 「JPHC スタディ」の研究結果をもとに、国立がん研究センターが2011年4月に開設したツール。生活習慣や検診項目など10問以内の簡単な設問に回答するだけで、今後10年間の疾病罹患リスクが診断できる。「がんと循環器の病気リスクチェック」を公開して以降、男性を対象とした「大腸がんリスクチェック」「脳卒中リスクチェック」「5つの健康習慣によるがんリスクチェック」「胃がんリスクチェック」の全5種類を公開している。